

令和3年6月1日 信者心の道勉強会

「流れに乗れた人が運命と調和」

神 示

有限の人生を

喜び多く 生きがいにあふれたもの^{時代}へと

導く「力」に気付くべし

時代は 人間がつくり出しているのではない

時代の力^{運命}が働いて

自然な流れの中で

人間も 社会も 環境も動く

人間のできる努力は 誠に小さい

なれど 人間は 努力を絶大と頼る

信者に申す

「教え」を学び 社会を正しく知る知恵とすべし

「教え」に気付きを得て 人生に悟りを深めるほど

人の心は安定し 迷いが無い

運命に重なる心の動きが取れるゆえ

時代の流れ^{変化}を受け止め 調和する

物事との出会いが生きて 時代の力^{運命}に守られる

努力が実り 生かせる人^{人々}は皆

社会の流れを見越し 流れに乗っている

人生の見越しは

知識 努力でなるものではなく

時代の運命に我が「心」^{運命}を重ねて生^なるもの

「真理」で心重ね

声掛け 支え合える家庭を築く努力をする

この努力が

正しく「生きる」^{努力}心を引き出す土台となる

人生には限りがあります。その有限の人生を、喜び多く、生きがいのあるものとするかどうかは、与えられた運命の力を生かせるか否かにかかっています。各人の運命を生かすには、それよりほかに大きな時代の運命と重なることが必要です。時の流れは、人間がつくり出したものではありません。時代の運命の力による大きなうねりです。

一人一人が、その中で生かされています。自然も、社会環境も、時代の力が働き、回っています。人間の力が及ぶ世界など、実に少ないのが現実です。

しかし、多くの人々は、努力が絶対と思いついています。学問や知識など、人の力でどうにかできると思うから、欲心が抑えられないのです。

神から教えを学び、この世の仕組みをつかむことです。その中で、どう生きるべきかを身に付けるのです。それができれば、的確な判断ができ、迷いがなくなります。心が安定します。

そして、持って生まれた分、器、運命に重なる心の動きが取れて、一つ一つの変化を受け止め、調和できます。どのような環境にあっても、不協和音など生まらず、さまざまな出会いが生かして、時代の運命に守られることになるのです。

置かれた環境で力を生かし、役立とうとする人は、努力が実ります。時勢に合わせ、流れに乗って生きられます。

人間の力で、先々を見通すことなどできません。ですから、時代の運命が生み出す流れに、自らの運命を合わせるところに、実りが得られるのです。

人生における正しい努力は、思いつきや強引なものではありません。環境に調和する中で、自身の良さを生かそうと努める心遣いです。持てる力を求める人々のために使おうとするのです。

家族で教えを身に付け、心が通う、共に支え合える家庭を築きましょう。そこに、生きる力が引き出されます。

すると、時代の運命も味方します。結果、先を見据えたような安泰な人生となり、流れに乗って生きられるのです。

「流れに乗れた人が運命と調和」

神 示

時代の真実は 流れと気付くべし

真実は常に変化し とどまることがない

人生も 時代の中で生かされる有限の時^{時代}ゆえに

流れに乗ること

ますますその存在は生きてくる

悔いなき人生を歩み抜く人間の姿が ここにある

信者に申す

社会の変化を正しく知るために

「教え」を心の支え^{人生}に生きることが必要

知識も 体験も

時代の流れの中で学び 味わう^{いっとき}一時^{価値}のものゆえ

流れに乗って初めて役立つ

神が使者を通し ^{社会}世に示す「教え」は

全てが「真理」

真実を正しく受け止め

社会の流れに乗って生きる

気付き 「悟り」を引き出す

時代の流れは

神の手の中 常に調和を保つため

時代の運命が起こしている

この真実「真理」を知って

「運命」に重なる人生を歩む「悟り」がほしい

時代とは、流れです。時の流れとはどのようなもので、どうすれば流れに乗って生きられるのか、運命と調和する生き方を、神はご指導くださっています。

時の流れは、常に止まらず、また同じものはありません。地球における気の流れ、潮の流れも、同じように見えて、毎年違います。いかに科学、技術が発達しても、予測もつかないものです。

人の一生も、そうした時代の移り変わりの中で生かされる、神から与えられた有限の時です。生まれて年を重ね、時々刻々と変化し続けます。ですから、折々の流れに乗って生きてこそ、自身の存在も光るのです。

その時、その場で、求められるものは異なってきます。ですから、流れに合わせて、自分にできることを実践するので。良さを生かして、周りに良い影響を与えましょう。そこに、自身の存在が役立つ、悔いのない人生が歩めます。

社会の変化を的確につかむには、神から教えを学ぶことが欠かせません。それを考え方の軸に据えて生きるのです。そのため、神示が表されています。人類が手にした知識や体験なども、時の流れの中で学び、味わえるものです。年月を経れば、確実に変化します。ですから、知識も、経験も、流れに乗って初めて生かせます。

神が表される教えは、真理です。代神の時代も、直使の時代も、今の時代も、物事のあるべき道理を示しています。真理だからこそ、学べば、現実を正しく受け止め、社会の流れに乗って生きる気付き、悟りにつながります。それは、学校教育でかなうものではありません。

時の流れは、右に左に揺れながら、調和を保とうと、時代の運命が働きます。その時々にも生まれる欲心から、安定感を欠いても、神の手の中、調和に戻るよう時代に運命が作用するのです。

この現実を知って、運命に重なる人生を歩む心を持ってほしいと、神は促されています。教えに生きれば、運命を引き出し、悔いのない一生が手にできます。